情報利用定点観測プロジェクト

～学生たちは新しい学習環境をどのように使い、
どのように学んでいるのか～

アカデミック・リンク・センター　特任助教
國本千裕

プロジェクトの最終目標

* 情報利用定点観測プロジェクト
  * 学生の学習行動と学習成果の関連を、情報利用行動と、学習/生活空間の利用状況から継続的・横断的に検証する

* 学習環境変革のアウトカム評価を実現する手法／指標の検討，実施

5調査の位置づけ

* 大学での学習・情報利用？

  ①千葉大学学習行動情報利用環境調査

* 図書館での学習・情報利用？

  ②フォーカス・グループ・インタビュー

* 図書館での学習空間の利用？

  ③定点カメラ観測+赤外線センサーによる調査

* 図書館でのコンテンツの利用？

  ④ブックトラック返却+RFIDによる調査

* 大学内外での学習・情報利用？

  ⑤写真+インタビューによる調査（フォトボイス）

質的＆量的調査の組み合わせ（手法の検討）

ウェブ質問紙

＊大学での学習・情報利用？

①千葉大学学習行動情報利用環境調査

グループインタビュー

図書館での学習・情報利用？

②フォーカス・グループ・インタビュー

＊ 図書館での学習空間の利用？

③定点カメラ観測+赤外線センサーによる

カメラ観察＋センサ測定

図書館でのコンテンツの利用？

④ブックトラック返却+RFIDによる調査

日記法+個人インタビュー

＊大学内外での学習・情報利用？

⑤写真+インタビューによる調査（フォトボイス）

特徴と利点

* 参加メンバーそれぞれの知識・知見が活かされている
  * 教員（教育学、工学、図書館・情報学）
  * 図書館員

* 図書館員が調査設計、実施、分析の全プロセスに参加
  * “ 学生の「声」を、直接、フラットに聞くことの重要性”
  * “ 学生の生活や学習を「見る」ことの重要性 ”

調査から「見えて」きたこと

学習環境

* 「静寂」と「会話可能」どちらの学習空間も好まれる
* 「個人学習席」と「集団学習席」は併存（近接）が好ましい
* 可動式什器 + それを動かせる自由度の高い空間が重要
* 可視的な学習空間は、学生の「やる気」を引き出す？

コンテンツの整備と利用

* コンテンツと学習空間の近接により
  * 発展学習、（入門書による）自学自習の促進
  * 会話可能空間に「秩序」を生み出す
  * 興味・関心を引き出す　　…等の効果あり

* 学生には、コンテンツを「利用したい」場所がある？

* 館内利用を測定する手法・指標が必要
  * 貸出率のみで「利用」をみることの危うさ
  * 利用される「分野」や「時間」に着目した分析も

学生の学習・情報利用行動

* 基本は個人学習
  * 単純に「グループワーク課題」を出しただけでは協働しない
* 学生の「学習」は多彩
  * カリキュラム関連学習も、そうでない学習も
    （フォーマル・インフォーマルの2区分で分けられないものも）
* カリキュラムに関連しない学習や情報収集は、
  各自の専門分野・進路・興味関心と強く結びつく
* 何を重要視し、どのような学習をするかは、個人差大

今後の課題

これから、できること。

* プロジェクトとして
  * データの継続的な捕捉
  * 現在取得済みのデータの分析と、成果公表
  * 学習環境変革のアウトカム評価のための手法・指標の提案

* 図書館として
  * 人的サービスに関する、認知度の低さ
    * 広報の前に「なぜなのか？」を見る・聞く・考える
  * 学生を「みる・みまもる」ことの重要性
    * 「空気」を創るのは学生だけ…？